

大人ファミリーのライフスタイル

～「両親+社会人の子供」からなる家族の暮らしと 住まいづくりの実例～

都市生活研究所では、「65歳未満の両親と学業を終えた未婚の子供が同居している世帯」を「大人ファミリー」と定義し、「大人ファミリー」のライフスタイルについて調査を行った。本レポートでは、調査から明らかになった生活実態と意識、「大人ファミリー」の住まいづくりの実例を紹介する。

■大人ファミリーは「合理的」で「安心」だが、「子供が自立しない」

- ・ 学業を終えた子供と一緒に住んでいる理由は、「子供が出ていかない」「出る必要がない」「子供の経済面での不安」である。
- ・ 大人ファミリーの親の半数以上が「子供が出て出なくてもどちらでもよい」と考えている。「世間体がよくない」と感じる人はほとんどいない。
- ・ 親は子供と同居することで「金銭的な合理性」「安心」「家族の絆」を感じているが、「子供が自立しない」「家事がラクにならない」といった不満も感じている。

■生活面、経済面において、親が子供の面倒を見る関係が続いている

- ・ 料理や後片付け、掃除、洗濯など家事のほとんどは母親が行っている。子供が行うことはほぼなく、個室の掃除も6割以上は母親が行っている。
- ・ 家計面についても、3割弱の子供は全く家にお金を入れておらず、携帯電話料金の支払い、外食時の支払いなどについても、7割以上の親が負担しており、子供が負担する割合は低い。

■親子の仲は良く、子供は「かけがえのない」「守ってあげたい」存在

- ・ 親子の仲は全体に良く、特に女性（母親）と娘は仲が良い。ショッピングやテーマパーク、ライブ・コンサートなどに一緒に出掛けたり、洋服などのモノを共有することも多い。
- ・ 親にとって子供は「かけがえのない」「守ってあげたい」存在であり、女性（母親）にとっては「頼りになる存在」でもある。
- ・ 子供が結婚したり、孫ができたりした場合は、親子で近くに住みたい意向が高い。特に女性（母親）は娘が徒歩圏内に住むことを希望する人が多い。

調査概要

■定性調査①

調査時期：2014年12月
調査方法：日記調査
調査対象：一都三県在住男女
回答者数：50名

■定性調査②

調査時期：2015年1月
調査方法：グループインタビュー調査
調査対象：一都三県在住男女
回答者数：20名

■定量調査①

調査時期：2015年7月
調査方法：WEB調査
調査対象：一都三県在住男女
回答者数：1800名

ほか（※詳細は最終ページ参照）